

日本学術会議社会学委員会:価値とイノベーションの創発による福祉システム検討分科会
(第26期・第4回) 議事録

日 時: 2025年1月11日(土) 16時15分～17時15分

場 所: オンライン会議システム

出席者: 秋元美世 大和三重 金子光一 木原活信 権藤恭之 住居広士 竹本与志人
永田祐 広井良典 保正友子 持丸正明 山田あすか 山野則子 和気純子
(14名)

欠席者: 岩崎晋也 岩永理恵 木下武徳 空閑浩人 熊谷晋一郎 原田正樹 湯澤直美
(7名)

記 録: 永田祐

<議題>

1 本日のシンポジウムの振り返り

本日開催のシンポジウム「価値とイノベーションの創発による福祉システムの構築」の参加登録者は405名、実際の参加者は173名であった。学際的な内容で、幅広い視野で考える良い機会となった。アンケートの結果を分析し、今後の分科会活動の参考とする。

2 意思の表出について

第26期の検討テーマが啓発的な内容であることから、議論の結果を「報告」としてとりまとめる。2025年3月末を目途に、社会学委員会に「報告」の発出申請を行う。今後、分科会委員より意見を伺いながら、骨子案の検討を行う。

3 今後の活動計画について

「報告」の作成をふまえ、次回委員会で、第2回シンポジウムの内容や登壇者を検討する。また、「報告」を用いた啓発活動等についても、ご助言・ご協力をお願いする。

4 その他

「日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会」が2024年12月20日、「世界最高のナショナルアカデミーを目指して」と題する最終報告を公表した。これを受けて、2024年12月22日に日本学術会議会長談話「有識者懇談会最終報告及び日本学術会議第193回総会を受けて～より良い役割発揮のための改革に向けて～」が発信された。今後も動向を注視していく。

以上